

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
 発行人 田沼好通
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-17-1 NK第1ビル
 ☎03(5259)0631

10年後(2009年)の修学旅行人口は 今年度(1999年)より76万人 減少の見込み —修学旅行に見る少子化傾向—

総務庁統計局の統計によると、我が国の総人口は約一億二千万人(一九九八年)に達し、現在一億二千万人とほぼ同等となりつつあり、少子化と高齢化傾向が進んでいることである。

少子化傾向を出生数で見ると、ピーク時の一九七五年(昭和50年)には二百万人を越え、平成元年(一九八九年)からは、百二十万人前後と安定しており、少子化傾向は歯止めが掛かっと思われる。

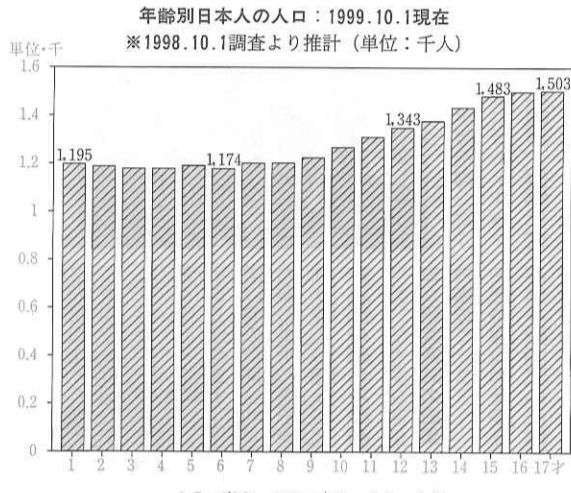
【修学旅行人口とは】

修学旅行の実施学年は、一般的に小学校は6学年、中学校は3学年、高校は2学年である。

修学旅行人口とは、これから修学旅行を実施する各学年の対象学年生徒数を言う。

【本年度の年齢別人口】

下図は、一九九九年十月一日(推定)の年齢別人口グラフである。



本年度の修学旅行人口の合計は四三二九千人となっており、少子化傾向により修学旅行人口は年々減少傾向を辿る。

修学旅行人口の推移(予測)

西暦	修学旅行人口(千人)			合計(千人)		前年比	指数
	小学校6年	中学校3年	高校2年	前年比	指数		
1999	1,343	—	1,503	—	—	—	100.0
2000	1,304	97.1	1,431	96.5	1,500	99.8	97.8
2001	1,261	96.7	1,372	95.9	1,483	98.9	95.1
2002	1,223	97.0	1,343	97.9	1,431	96.5	92.3
2003	1,201	98.2	1,304	97.1	1,372	95.9	89.6
2004	1,199	99.8	1,261	96.7	1,343	97.9	87.8
2005	1,174	97.9	1,223	97.0	1,304	97.1	85.5
2006	1,188	101.2	1,201	98.2	1,261	96.7	84.3
2007	1,173	98.7	1,199	99.8	1,223	97.0	83.0
2008	1,175	100.2	1,174	97.9	1,201	98.2	82.0
2009	1,182	100.6	1,188	101.2	1,199	99.8	82.4
2010	1,195	101.1	1,173	98.7	1,174	97.9	81.8

※平成10年10月1日現在の日本人口統計より予測
 ※高校進学率100%として推計

財団法人全国修学旅行研究協会(全修協)は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得、修学旅行の改善向上を目指す。全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

風紋

立秋が過ぎてもない一月余り続いていた残暑が去り、一転して秋意を感じる爽やかな朝、近頃の公園を散策していて梧桐の大きな葉がすてきに茶色に色づき、秋の気配が伝わってきているのに目が行き止まり、梧桐の葉が落ちてくると「天下の秋を知る」という句がふと思いつかんだ。この句は、前二世紀末の中国・漢の時代に編纂された淮南子という書物の中の一節が原典である。中国では古くから他の木々に先がけて散り始める梧桐の葉のさわさわと散る音に秋の到来を感じ取る趣があった。我が国でも、梧桐の葉が踏み分けがたくなりけりかならず人を待つとはなくはくはく今集秋の歌・式子内親王

楽しい旅に 大きな安心。

「学校旅行総合保険」をおすすめします。

東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)



「おみやげも買えて満足...」
 (名古屋市立東港中学校)

主張

連合体輸送の

継続発展に向けて

近畿・東海地域の平成十年度JR連合体輸送の申込が間もなく締め切られる。地の変遷や、新しい修学旅行の動き、東海・近畿両地域の関係者の努力によって連合体輸送が成立した。それによって、全修協の主張する三原則すなわち安全性の確保と経済性の適正化は図られ、その上に立って最も本来的な教育性の充実・高揚も推し進められることとなる。昇の傾向の中で改めてこのことを認識すべきであろう。

保護者の経済的負担軽減は、これもこれに加盟している学校は全面的な信頼と安全の希望により設定したいと、輸送交通機関は、この背景には、高校受験、学校の行事の集中などから、一層の配慮をお願いしたい。以上のように、修学旅行の取扱いの問題も専用列車運送に関する問題が浮かんできているが、連合体輸送は現在、最大の経済性、安全性、快適性を確保し、安全・快適性を確保し、柔軟に運営していくことが必要である。実施期日や検討・対応されることを重視する。先述した修学旅行三原則を踏まえて、各地区修学旅行委員会、関係諸機関と連携・協議を深めていきたいと考える。

夢と感動の修学旅行

人が好き。地球が好き。旅がスキ。

近畿日本ツーリスト

運輸大臣登録旅行業第20号 (社)日本旅行業協会会員

